

第62回「前島密賞」受賞

無線アクセス開発部の安部田 貞行氏，渡邊 靖之氏，島津 義嗣氏，移動機開発部の徳弘 徳人氏は，「効果的なLTE-Advancedの展開を実現する高度化C-RANの実用化」への功績が認められ，2017年4月11日に公益財団法人通信文化協会より第62回「前島密賞」を受賞しました。

前島密賞とは，通信事業の創始者「前島 密」氏の功績を記念し，情報通信および放送の進歩発展に著しい功績があった者に，公益財団法人通信文化協会より授与されるものです。ドコモは，昨年の「標準化への積極的貢献による高音質・高効率なVoLTEの早期実用化」に続いての連続の受賞となりました。

LTE-Advancedは，スマートフォンの普及や動画などのマルチメディアコンテンツの拡充に伴うモバ

イル通信の大容量化および高速化への需要に対応したLTE (Long Term Evolution) をベースとして，さらなる高速化・大容量化を実現する移動通信システムとして期待される重要なシステムです。

このLTE-Advancedを効果的に導入・展開することを目的に，C-RAN (Centralized Radio Access Network) の特徴を活かした新たな無線アクセスネットワークアーキテクチャである高度化C-RANを考案し，高度化C-RANに対応した無線基地局装置の開発と実用化に成功するとともに，同時に開発したLTE-Advanced対応端末を用いて，2015年2月に屋外商用環境での検証を実施し，35MHz帯域幅を用いて受信時240Mbpsのデータ通信に成功しました。さらに，2015年3月に全国22都道府県から「PREMIUM 4G」としてサービスを開始し，2016年5月には下り最大375Mbpsの通信速度を提供しました。導入から約1年3カ月（2016年6月末）で全国1,203都市・30,900局への展開を進め，LTE-Advanced対応端末の稼働台数は700万台を超えるなど急速に普及しました。

以上のように，「効果的なLTE-Advancedの展開を実現する高度化C-RANの実用化」では，モバイルネットワークにおけるリッチコンテンツの利用促進など，新たな市場の拡大に貢献し，その功績が認められ，今回の受賞となりました。

